

# 子どもの**道徳性**の発達に 関する心理学的研究

愛知学院大学・総合政策学部  
教授・教育学博士 二宮克美

# 1. 「道徳性」の発達に関する従来の 心理学的理論

## 1. Piaget, J. (1932) 「児童の道徳的判断」

他律的な**大人の拘束**による道徳⇒

自律的な**仲間との協同**による道徳

一方的尊敬⇒相互的尊敬

## 2. Kohlberg, L. (1963)

**3水準6段階説**（10歳以上の男子のデータ

に基づく「正義」「justice」を中核とした認知発達  
理論）

段階1: 罰と服従への指向

段階2: 道具主義的な相対主義

段階3: 对人的同調あるいは良い子指向

段階4: 法と秩序指向

段階5: 社会契約的な法律指向

段階6: 普遍的な倫理的原理指向

### **3. Gilligan, C. (1982) “In a different voice:**

*Psychological theory and women’s development”*

女性は、人間関係・気配り・共感などを主要原理とする「**配慮と責任**の道徳性」を発達させる。

## 2. 社会的領域理論 (social domain theory)

### 1. Turiel, E. (1983)

私たちが守らなければならない社会的ルールには、他者の権利や福祉に関する**道徳性**と社会的相互作用を円滑にし、**社会秩序を維持する社会的慣習** (social convention)の2つが存在し、それらを区別しなければならない。

最近では「個人／自己管理」の心理領域が追加されている。

表. 領域の定義と基準(首藤・二宮、2003)

	道徳	慣習	心理(個人/自己管理)
知識の基盤	正義や福祉や権利といった概念	社会システムに関する概念	個人の自由や意志に関する概念
社会的文脈	行為が他者の身体、福祉、権利に与える直接的影響	社会的関係を調整するための恣意的だが意見の一致による取り決め	行為が行為者に与える影響
基準	規則の有無とは無関係 権威とは独立 一般性あり 自由裁量なし	規則の有無に随伴 権威に依存 一般性なし 自由裁量なし	規則の有無とは無関係 権威とは独立 一般性なし 自由裁量あり
典型的な場面の例	盗み・殺人・詐欺・緊急場面での援助いじめなど	挨拶・呼称・生活習慣・宗教儀式・テーブルマナー・校則など	趣味・遊びの選択・友だちの選択など

●「領域調整」という考え方: 1つの領域からの思考をこえた解釈や判断の問題

<例> 向社会的行動(prosocial behavior)は自由意志に委ねられるという個人領域の要素と他者の生命の救助という道徳的要素をあわせもつ。

乗り物への割り込み行為は社会的秩序を乱すという慣習的な側面と同時に、待ち時間と乗車優先の公平さという道徳的側面をもっている。

人工妊娠中絶の問題を道徳領域の問題ととらえるか、個人領域の問題ととらえるかで、中絶率に違いが見られる(Smetana, J. 1982)。

## 2. Smetana, J. らの研究

Turielの考えを、親や教師の権威(authority)の正当性の問題、青年の自己決定意識や個人的裁量権の問題まで拡張

⇒青年と両親との葛藤は、道徳領域ではほとんどおこらないが、個人領域の事柄で生じている。

自己開放性(個人情報管理)と秘密の問題、言論の自由と民主主義、プライバシーと知る権利の問題などに発展

# 3. 最近の心理学的諸理論

## 1. Eisenberg, N. (2005) の向社会性発達理論

同情は認知的視点取得とともに、向社会的道徳推論のレベル(※)を予測し、向社会的行動を予測する。視点取得だけでは向社会的行動を予測しないが、同情は単独でも向社会的行動を予測する。

- ※ レベル1: 快樂主義的・自己焦点的指向
- レベル2: 相手の要求に目を向けた指向
- レベル3: 承認および対人的指向、あるいは紋切り型の指向
- レベル4a: 自己反省的な共感指向
- レベル4b: 移行段階
- レベル5: 強く内面化された段階

## 2. Hoffman, M. (2000) の共感と道徳性の発達理論

共感が普遍的で向社会的な道徳性である⇒共感的道徳性(empathic morality)  
共感的苦痛と共感をもとにした罪悪感が、誘導的なしつけによって、共感的道徳性を発達させる。

共感性＝他人の感情との正確なマッチングではなく、自分の状況よりも他人の状況に適した感情的反応

### 3. Kochanska, G. (2002, 2005) の良心 (conscience) の発達理論

良心は、道徳的情動(moral emotion)とルールに適合する行い(rule-compatible conduct)とからなる。

道徳的情動は、罪悪感と共感的苦痛からなる。ルールに適合する行いは、母親の禁止と要請の内面化ならびに他の大人のルールの内面化からなる。

# 道徳的自己 (*moral self*) の側面

(Kochanska, G. 2002)

1. 自白
2. 謝罪
3. 償い
4. 規則違反への感受性
5. 内面化した行い
6. 共感性
7. 他者の悪い行いへの関心
8. 違反後の罪悪感や不快感
9. 両親との良い感情への関心

# 4. Kagan, J. (2005) の気質に関連した 道徳性の発達段階説

段階1: 罰せられた行為を抑制できる

段階2: 禁止された行動を表象できる

段階3: 共感・恥・罪悪感などの情動をもつ

(2歳の終わり頃)

段階4: 良い・悪いといった意味的概念を獲得する

(3歳のはじめ頃)

段階5: 社会的カテゴリー(性別・社会階級・国籍など)  
の道徳的義務を受け入れる

(4歳から6歳頃)

段階6: 公正(fairness)と理想の概念を理解する

(学童期)

# 5. Blasi, A. (2005) の道徳的人格 (moral character) の考え方

道徳的キャラクターの内容は、正直・寛大・謙虚という低次の徳ではなく、意志の力 (will power)・高潔さ (integrity) という高次の徳によって記述されるべきと指摘。

低次の徳は道徳的な意味を提供するが、高次の徳は動機づけの下支えと関係しており、キャラクターの安定性と一般性に関係している。

\* ニコマコス倫理学 (アリストテレス)

徳が「他者とのかかわりにおいて」発動するとき、それは正義となる。単に「善への行為能力」として在るとき、それは徳と呼ばれる。

# 道徳的人格—心理学的アプローチ

## 表1. 道徳的徳 (moral virtue) のリスト

Blasi,A.(2005)

### 低次の徳

共感性(empathy)	従順(obedience)
あわれみ(compassion)	法遵守(law-abidingness)
礼儀正しい(politeness)	公共心(civic-mindedness)
うやうやしい(respectfulness)	正直(honesty)
思慮深い(thoughtfulness)	良心的(conscientiousness)
親切(kindness)	誠実(truthfulness)
寛大(generosity)	公平(fairness)
愛他的(altruism)	正義(justice)
友情(friendship)	勇気(courage)
忠実な(loyalty)	謙虚さ(humility)

## 高次の徳

### 意志のクラスター

- 忍耐力(perseverance)
- 決断力(determination)
- 自己鍛錬(self-discipline)
- 自己統制(self-control)
- 意志力(willpower)

### 高潔のクラスター

- 責任性(responsibility)
- 説明義務(accountability)
- 自己一貫性(self-consistency)
- 表裏のない(sincerity)
- 高潔さ(integrity)
- 原理主義(principledness)
- 自分自身への透明性(transparentcy to oneself)
- 自分自身への正直さ(honesty with oneself)
- 自律(autonomy)

## 表2. 道徳的意志(moral will)の発達ステップ

(Blasi,2005)

1. 子どもは願望(desires)を経験する。その願望はしばしば互いに食い違ったものである。しかし、子どもは願望から自分自身を遠ざけたり、願望を選んだりすることはできない。子どもの意図的な行為は、より直接的で差し迫った願望に従う。そこには意志力(volition)はない。
2. 前に願望が満たされた記憶に助けられて、子どもは1つの特定の経験、他のもの(2次的願望)よりもむしろ1つの行為を求め、それを再現することを望む。子どもの好みの願望が効果的になされる際に、子どもは意志力を形成しはじめる。子どもは現存する願望を専有し、自分の行動主体(agency)の領域内におく。子どもの意志力は具体的であり、今経験したこの願望の決断である。

3. 意志(will)は、拡張し始める。それはますます具体的な状況でのさらなる具体的な願望を専有する。子どもの意志は、極端な分裂(fragmentation)によって特徴づけられている。
4. 行為や願望の範疇は、意志力の対象となる。意志はやや断片的ではなくなる。それでもやはり意志は、具体的な経験のレベルから完全に手を引くことはなく、その正当性を提供し続ける。道徳的願望は存在するだろうが、まだ局所的で十分に分化していない。道徳的意志力はまれであろう。
5. 価値(value)の範疇は、具体的な良さ・美などの願望から抽象化される。大人を含む多くの人々では、道徳的価値は他の価値と並んで受け入れられる。道徳的意志力は、他の意志力と競合し、また第1次の願望と競合する。道徳性は、多くの自己概念の1つである。

6. ある人たちは、ある特定の道徳的願望が、特にそれが拒否された願望と食い違う時に、勝ることを望む。道徳的願望が真の価値となり、人の人生の側面を構成する。ある人たちは、いくつかの道徳的価値がお互いに関連し、自分の人生の大きな領域を調整する。こうした人たちは、道徳的人格(moral character)をもっていると言える。しかし、まだ拒否された願望を避けることに強調が置かれている。そのため、平均的な大人の人生や自己概念は、まだ様々な願望と価値によって定義される。真心のこもったもの(wholeheartedness)ではない。
7. ある人たちは、特定の価値や一般的な道徳的願望が、基礎的な関心事になり、そのまわりに意志が構成される。と同時に、**道徳的な良さ**(moral good)への「真心のこもった関与」が、核となるアイデンティティ、ならびに分かちがたい意志を生み出す。彼らにとって、十分に道徳的でないやり方で行動することは、とても考えられないようになる。

## 4. Character educationの台頭

1. Lickona, T., Schaps, E., & Lewis, C. (2003)の「キャラクター教育の11の原理」
2. Narvaez, D. (2006)の「統合的倫理教育」(Integrative ethical education)

# 1. キャラクター教育の11の原理

リコーナ(Lickona, T.) は、「キャラクターとは、徳のことである。善きキャラクターとは、よりよく徳をそなえたキャラクターのことである。」と述べた。そして、「キャラクター教育とは、徳を意図的に教えることである」と述べ、従来の道徳教育への復帰を標榜した。読み・書き・計算の3つのRに加え、尊重(respect)と責任(responsibility)という5つのRを学校教育活動で実施しなければならないことを指摘した。

Lickona, T., Schaps, E., & Lewis, C. 2003 *The eleven principles of effective character education*. Washington, D.C.: Character Education Partnership.

<http://www.character.org/>

- (1) 良いキャラクターの基礎としての中核的な倫理的価値(思いやり・正直さ・公正さ・責任・尊敬)を奨励する。
- (2) キャラクターは、考えること、感じること、行動することを含むものとして広く定義する。
- (3) キャラクターの発達に対して、包括的、意図的、前進的ならびに効果的なアプローチを用いる。
- (4) 思いやりのある学校協同体をつくる。
- (5) 生徒に道徳的な行為をする機会を提供する。
- (6) 学習するすべての者を尊重し、自分自身のキャラクターを伸ばし、成功を援助するような意味があり意欲をそそるような学習カリキュラムを含める。

- (7)生徒自身のやる気を育むよう努力する。
- (8)学校の教職員は、学習・道徳の協同体の一員となり、すべての職員がキャラクター教育の責任を分かち合い、生徒の教育の指針となる同一の中核的価値に従って忠実な努力をする。
- (9)キャラクター教育をはじめるとにあたって、道徳的なリーダーシップを共有し、長期的な支援を培う。
- (10)家庭やコミュニティのメンバーを、キャラクター形成のパートナーとして迎える努力をする。
- (11)キャラクター教育者としての学校のキャラクターと学校の教職員の機能を評価し、生徒がどの程度良いキャラクターを体現しているかを評価する。

## 2. Narvaez, D. の統合的倫理教育の考え方

### (1) 倫理的感受性(ethical sensitivity)

- ・情動表現を理解する
- ・他者の視点を取る
- ・他者との結びつき
- ・状況の解釈
- ・効果的にコミュニケーションをとる など

### (2) 倫理的判断(ethical judgment)

- ・倫理的問題の理解
- ・結果(consequence)の理解
- ・規定(code)の使用と判断基準の同定
- ・過程と結果(outcome)の反省
- ・意思決定と実行の計画 など

### (3) 倫理的焦点(ethical focus)

- ・他者の尊敬
- ・責任の実行
- ・他者の援助
- ・良心の育成
- ・倫理的アイデンティティと統合(integrity)の発達 など

### (4) 倫理的行為(ethical action)

- ・葛藤と問題の解決
- ・リーダーとしての率先性
- ・勇気の育成
- ・忍耐力 など

## 5. 提言

- (1) 道徳性の側面だけを取り上げるのではなく、子どもの**人格(character)全体**の発達を枠組みとしてもつ
- (2) 他者の立場に立って物事を考え、行動できる力(**視点取得**)を育てる
- (3) **共感**や**同情**といった感情を育成する
- (4) 悪いことをしたときに感じる気持ち(**罪悪感**)を大切に育てる

【参考文献】(主たるもの)

- Aksan,N.,& Kochanska,G. 2005 Conscience in childhood: Old questions, new answers. *Developmental Psychology*, 41,506-516.
- Blasi,A. 2005 Moral character: A psychological approach. In D.K. Lapsley, & F.C. Power (Eds.) *Character psychology and character education*. Notre Dame: University of Notre Dame Press.
- Eisenberg,N. 2005 The development of empathy-related responding. In G.Carlo, & C.P.Edwards (Eds.) *Moral motivation through the life span. Vol. 51 of the Nebraska Symposium on Motivation*. Lincoln: University of Nebraska Press. Pp.73-117.
- Hoffman,M.L. 2000 *Empathy and moral development: Implications for caring and justice*. Cambridge: Cambridge University Press.[菊池章夫・二宮克美(訳) 2001 共感と道徳性の発達心理学:思いやりと正義とのかかわりで 川島書店]

- Kagan, J. 2005 Human morality and temperament. In G. Carlo, & C.P. Edwards (Eds.) *Moral motivation through the life span. Vol. 51 of the Nebraska Symposium on Motivation*. Lincoln: University of Nebraska Press. Pp.1-32.
- Kochanska, G. 2002 Committed compliance, moral self, and internalization: A mediational model. *Developmental Psychology*, **38**, 339-351.
- Narvaez, D. 2006 Integrative ethical education. In M. Killen & J. Smetana (Eds.) *Handbook of moral development*. New Jersey: Lawrence Erlbaum Associates. Pp.703-732.
- 首藤敏元・二宮克美 2003 子どもの道徳的自律の発達 風間書房
- Turiel, E. 1983 *The development of social knowledge: Morality and convention*. Cambridge: Cambridge University Press.